

# 月刊 自動車リサイクル

February 2016.  
Vol.59

2

自動車リサイクルの  
いま  
現在がわかる!!

## 新春特集②

自動車リサイクル団体トップに聞く 2016年のリサイクル業界展望

### イベントリポート

- ①オートモーティブワールド 2016
- ②東京オートサロン 2016

### 時の話題

- ①日本自動車リサイクル部品協議会定時社員総会
- ②第1回 情報発信の在り方等に関する検討会議事録が公開
- ③BEST Recyclers Alliance 平成28年 新年合同祝賀会を開催



全世界で業界トップの販売実績を誇る

### コベルコの金属解体機

用途別専用機  
ダイナスペック  
**マルチ解体機**

SK135SRD  
SK210D  
SK235SRD



用途別専用機  
ダイナスペック  
**自動車解体機**

SK210D  
SK235SRD



#### 【電動マルチ解体機】

##### 環境に優しい電動式マルチ解体機もラインアップ

エンジン式と同等の作業能力を有しながら、エネルギーコストを約半分に抑えられる電動式。CO<sub>2</sub>排出量の大幅削減などさまざまなメリットを有しています。



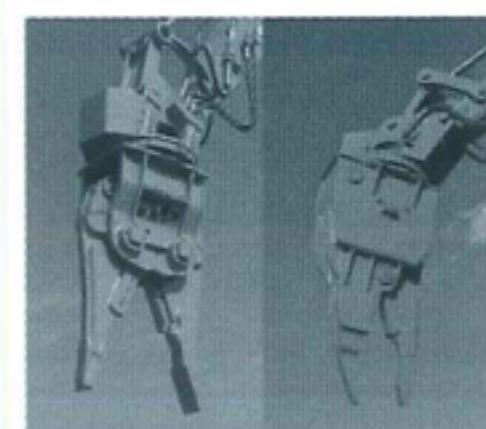
#### 複数の工程を1台でこなせる万能マシン

自動車解体とエンジン解体の両方に対応。解体準備からシュレッダ投入までさまざまな作業を効率よく実行でき、かつ大量の処理が可能です。おもに廃自動車の解体工程で活躍していますが、一般スクラップ解体のギロチン前処理機としても、その実力を發揮しています。

#### 廃自動車の解体作業に特化したマシン

パワフルな自動車解体ニブラーと車体をガッチリ押さえ込めるモノブームブロックタイプのクランプアームを装着。各部分の切断、もぎ取り、仕分け作業が効率よく行えます。1979年に、国産初となる固定式ニブラーを装着した自動車解体機を生産して以降、長年にわたり実績を積み上げているマシンです。

#### 【ニブラー】



(KHE750PR-2) (KVE720PR)



(KV800PR)

##### マルチ解体向け

微細な分別作業に適した形状をしており、効率的に作業が行えます。

##### 自動車解体向け

つかみ力やカッタ能力があり、パワフルな解体ができます。



## 自動車リサイクル団体トップに聞く



## 2016年のリサイクル業界展望



景気の回復に連動してなのかどうか、暖冬と言われた今冬。しかし、蓋を開けてみれば、1月も終わろうという頃、大寒波が訪れて各地が大雪に見舞われ、一方で2015年終盤の鉄資源価格の下落よろしくガソリン価格がリッター100円を切る地域も出るなど、波乱の幕開けとなった感のある2016年。時を同じくして、自動車リサイクル関連の業界団体の賀詞交歓会が相次いで開催された。

そこで、本特集では、こうした会合などを通じて、各業界団体トップのコメントを紹介することで、2016年の自動車リサイクル業界を占う判断材料としていただければ幸いである。

## 2016年 年頭所感



一般社団法人  
日本自動車リサイクル部品  
協議会 代表理事

清水 信夫氏

おかげさまで当協議会も今年で法人第6期、通算では22期目を迎えることができました。

また当協議会の指針ともいいうべき、自動車リサイクル法が10年目の見直しとして産構審・中間審の合同会議が2014年8月からスタートし、施行状況、評価、検討、業界としての取り組み、自動車リサイクル制度への提案に関するヒアリングが行われました。

報告書に対するパブリックコメント等の意見も踏まえまして、昨年2015年9月に自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書として公表されました。

報告書に基づきます今後の対応につきましては、2つございます。1つ目には自動車における3Rの推進、質の向上、2つ目にはより安定的かつ効率的な自動車リサイクル

制度への発展という、2つの方向が示されました。

私たち協議会の役割は、この有用部品の再利用、すなわちリユース部品の利用促進と、一部をコアとして使用するリビルト部品の普及にあると考えております。既に業界としまして、品質基準、保証基準は統一化を図る一方、安定的な供給のために議論し、またリユース部品・リビルト部品を使うことによるCO<sub>2</sub>削減の貢献に関する取り組みは、ご承知の通りだと思います。

これらをいっそう推進、拡大していくためには、さらなる業界内部の結束と協調が必要であると思います。お互いに商売ですので、ある意味では競争も避けられませんが、しかしながら業界全体の発展のため、またこれらの部品をお使いくださる利用者の皆々様と、小異を捨てて大同に付く協調の精神が必要です。

その意味で平成28年度の、供給側と需要側との連携活動に力を尽くしてまいり所存でございます。平成24年6月よりスタートしました、自動車リサイクル部品活用推進会議ですが、現在のメンバーは損保協会様、日整連様、中販連様、日車協連様、リサイクル部品協議会、また各関係省庁として経産省様、環境省

様、国交省様の三省様も会議に参加していただいております。

平成25年度からの取り組みといたしまして、リサイクル部品活用推進キャンペーンの啓蒙活動、また昨年度におきましてはチラシ45万枚、ポスター14万枚を作成していただきまして、ホームページ等においてキャンペーンの告知かつ参加メンバー等によるイベント等に活用させていただいております。

また昨年度は国交省さまからリサイクル部品活用推進ポスター、チラシを参加5団体に無償提供していただき、各団体の会員様に配布し、イベント等に使われました。

リサイクル部品協議会といたしましては、品質、CO<sub>2</sub>の削減の見える化の推進をテーマに、業界の信頼度の向上、リユース・リビルト部品の認知度向上、ユーザーアピール度の向上に取り組むグリーンポイントパーツのブランド化のために、環境貢献活動に取り組んでまいります。

これらの活動をてこにリユース部品・リビルト部品の利用促進を図ってまいりたいと思います。そのためにも業界の協調と競争が、より重要なになってまいります。皆さんのよりいっそうのご理解とご支援をお願い申し上げます。